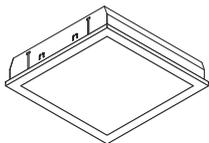


取扱説明書

住宅用照明器具（埋込シーリングライト）

保管用

施工説明付き



品番 LGC37122(8畳用)
LGC57122(12畳用)

お客様へ

このたびは、パナソニック製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
取扱説明書をよくお読みのうえ、正しく安全にお使いください。
ご使用前に「安全上のご注意」(1～2ページ)を必ずお読みください。
この取扱説明書は大切に保管してください。
施工には電気工事士の資格が必要です。必ず、販売店、工事店に依頼してください。

安全上のご注意

必ずお守りください

人への危害、財産の損害を防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。

■ 誤った使い方をしたときに生じる危害や
損害の程度を区分して、説明しています。

■ お守りいただく内容を、次の図表示で
説明しています。(下記は図記号の一例です。)

	警告	「死亡や重傷を負うおそれがある内容」です。
	注意	「傷害を負うことや、財産の損害が発生するおそれがある内容」です。

	してはいけない内容です。
	実行しなければならない内容です。

警告



必ず守る

● 異常を感じた場合、速やかに電源を切る
異常状態が収まったことを確認し、販売店
またはお客様ご相談窓口にご相談ください。



分解禁止

● 器具を改造したり、部品交換をしない
火災、感電、落下によるけがのおそれ
があります。

注意



必ず守る

● 照明器具には寿命があります。
設置して10年経つと、外観に異常がなくても
内部の劣化は進行しています
点検・交換してください

点検せずに長期間使い続けるとまれに
火災、感電、落下などに至る場合があります。
◎ 1年に1回は別紙「安全チェックシート」に
基づき自主点検してください。

● 器具の取り外しは販売店、工事店に依頼する
器具の取り外しには資格が必要です。



接触禁止

● 点灯中や消灯直後はLEDやその周辺にさわらない
やけどの原因となることがあります。
◎ お手入れは電源を切り、LEDやその周辺が
冷めてから行ってください。



禁止

● 温度の高くなるものを器具の真下に置かない
火災の原因となることがあります。

◎ 器具の真下にストーブなどを置かないでください。

● 点灯したLEDを長時間直視しない
目の痛みの原因となることがあります。

■施工の前によくお読みのうえ、正しく施工してください。この説明書は必ずお客様にお渡しください。
 ■施工説明に記載されていない方法や、指定の部品を使用しない方法で施工されたことにより事故や損害が生じたときには、当社では責任を負えません。また、その施工が原因で故障が生じた場合は、製品保証の対象外となります。

施工説明

安全上のご注意

必ずお守りください

警告

■取付面

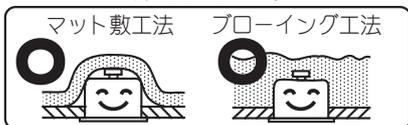
●次のような場所には取り付けない
 火災、感電、落下によるけがのおそれがあります。

- ・55度を超える傾斜した場所
- ・補強のない場所
- ・造営物、ダクトに接触する場所

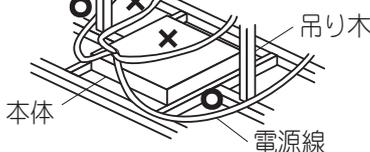
◎この器具は天井埋込み専用です。

●特殊な断熱・遮音・防音施工された天井には使用しない

過熱して火災のおそれがあります。
 この器具は日本照明工業会・埋込み形照明器具SB・SGI・SG形適合品です。



●電源線は本体上面に乗せたり、吊り木と本体の間を通さない
 火災のおそれがあります。



■その他

●器具の取り付けは、説明書に従い確実に行う
 取り付けに不備があると、火災、感電、落下によるけがのおそれがあります。

●交流100ボルトで使用する
 過電圧を加えると過熱し、火災、感電のおそれがあります。

●電源線は端子台の差込み穴の奥まで確実に差し込む

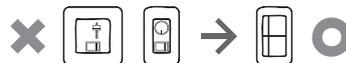
差し込みが不完全な場合、火災、感電のおそれがあります。

●保護チューブを切断しない
 火災、感電のおそれがあります。

●器具の取付部を除く外かくが天井内の造営物、ダクトなどの設備に触れないよう施工する
 接触すると火災、落下によるけがのおそれがあります。

■壁スイッチ

●調光機能が付いた壁スイッチの場合は、一般の入切用スイッチに交換する
 火災のおそれがあります。



◎調光器の取り外しが必要です。
 (取り外しには、資格が必要です)



禁止



必ず守る



必ず守る

注意

●付属の梱包材は取り除いて使用する
 そのまま使用すると、火災の原因となることがあります。

●器具の取り付け取り外しは
 手袋などの保護具を使用する
 けがのおそれがあります。

●周囲温度は、5~35℃で使用する
 指定外の周囲温度で使用すると、ちらつきや
 短寿命の原因となります。



水ぬれ禁止



禁止

●浴室など湿気の多い場所や屋外で使用しない
 火災、感電の原因となることがあります。
 ◎この器具は防湿、防雨型ではありません。

●温度の高くなるものの上に取り付けない
 レンジ等温度の高くなるものの上
 に器具を取り付けしないでください。
 火災の原因となることがあります。



必ず守る

付属部品

□保護チューブ(1本)



□ほこり防止シール(4枚)

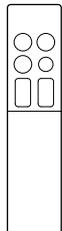


□リモコン(1個)

補修品番
 HK9811MM

※パットに貼り付けています

操作方法は、
 6~7ページ参照



単4形
 マンガン
 乾電池
 (2本)



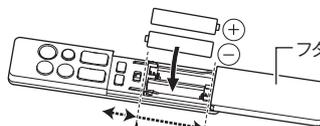
リモコン
 ボックス
 (1個)



リモコン
 ボックス用
 木ネジ(2本)

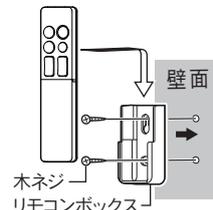


●リモコンのフタを開けて、
 単4形マンガン乾電池を2本入れる。



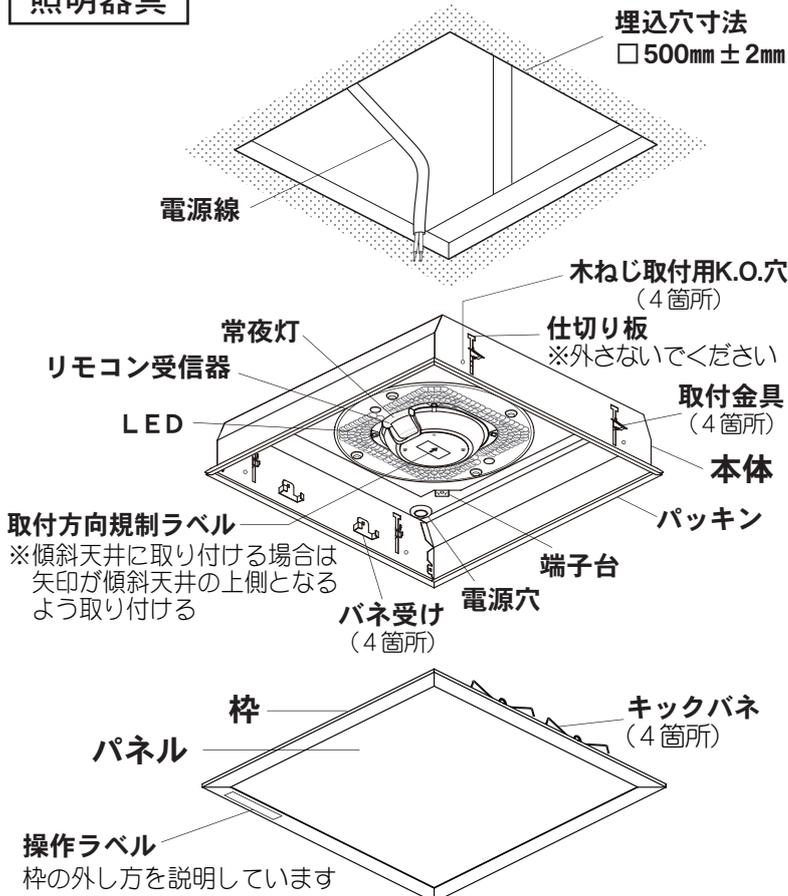
フタは、2度引く
 チャンネルボタンの下でいったん止まり
 ますので、もう1度引いてください。

●リモコンボックスを使用して、
 紛失防止用に壁掛け収納できます。

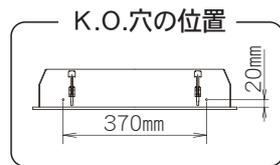


各部のなまえ

照明器具

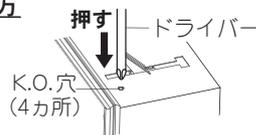


●取付金具で取付できない場合
φ3.8mmの木ねじ4本
(別途ご準備ください)
で取り付け可能です。
※本体の木ねじ取付用
K.O.穴を開けてください。



木ねじ用K.O.穴の開け方

①ドライバー等を使用し穴を開ける。



②穴を開けたあとの抜き片をニッパー等で切る。

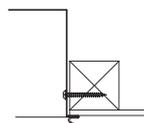


注意

抜き片や穴の端部で手などを切らない様に気をつけてください。

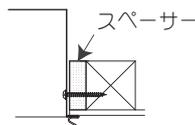
補強材に木ねじで固定する場合

- ① 補強材を取り付ける。
- ② 補強材を木ねじ4本で確実に取り付ける。



野縁に木ねじで固定する場合

- ① 野縁と埋込穴の隙間をスペーサー(木材)で埋める。
- ② 野縁に確実に固定される長さの木ねじ4本で取り付ける。
※ 木ねじは野縁に届く長さにしてください。



照明器具を取り付ける

安全のため、電源を切ってから行ってください

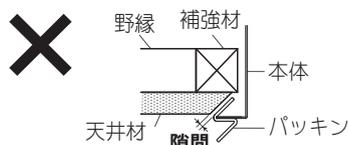
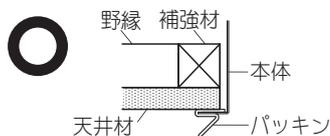
取り付け前の準備

・器具の取り付けは、手袋などの保護具を使用してください。

1 天井に□500mm ± 2mmの埋込穴をあける

●天井の埋込穴の仕上げ

天井とパッキンの間に隙間が生じ、気密性が損なわれますので、埋込穴の角を直角にしてください。



●天井の表面に凹凸のある天井の場合

表面に凹凸のある天井の場合は、気密性が損なわれますので、表面を平らに仕上げてください。

注意



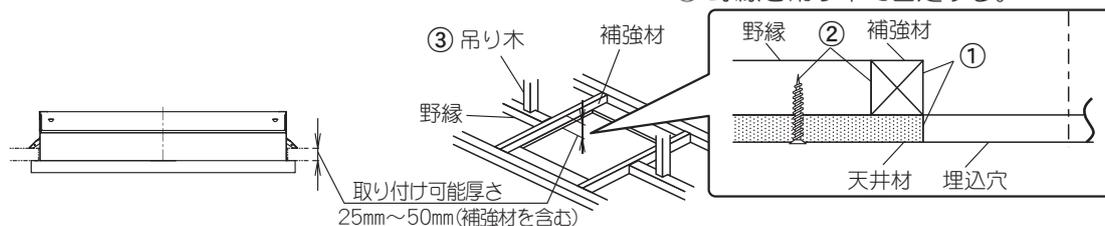
補強材を確実に取り付ける

取り付けが不完全な場合
落下によるけがの原因となります。

2 埋込穴を補強する

補強材を含む、取り付け可能厚さは25mm~50mmです。
補強がない場合は天井が反り、気密性が損なわれます。

- ① 埋込穴周囲に接して補強材を天井材に固定する。
- ② 野縁の端部は補強材とつなぎ、野縁を天井材に固定する。
- ③ 野縁を吊り木で固定する。

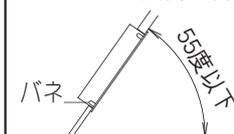


警告



55度を超える傾斜天井には
取り付けない
指定外取付は落下の原因となります。

傾斜天井に取り付ける場合



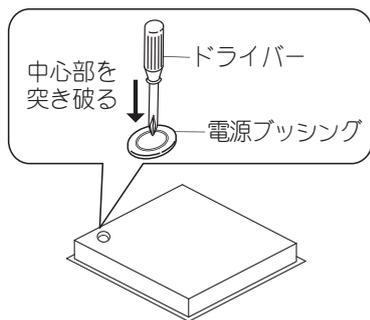
取付方向に規制があります。
上記「各部のなまえ」を
参照ください

(次ページにつづく)

取り付け方

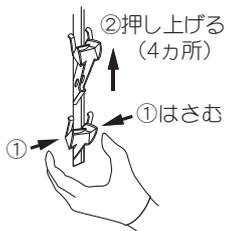
1 電源穴を開ける

本体天面の電源プッシングをドライバー等で突き破る

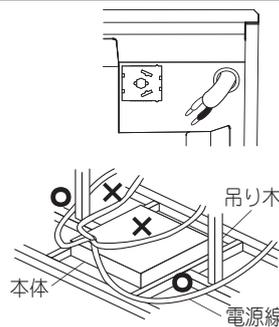


2 取付金具(4カ所)を押し上げる

- ・取り付ける天井厚さに合わせて本体内面より取付金具を押し上げる。
- ・取付金具にて取り付けできない場合、木ネジ(別途ご用意ください)により取り付けが可能です。



3 本体に電源線を引き込む

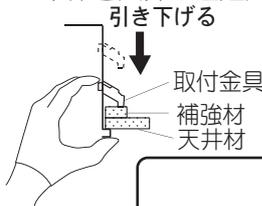


警告

電源線は本体上面に乗せたり吊り木と本体の間を通さない火災のおそれがあります。

4 本体を取り付ける

本体を天井の埋込穴に挿入し、取付金具を引き下げる。



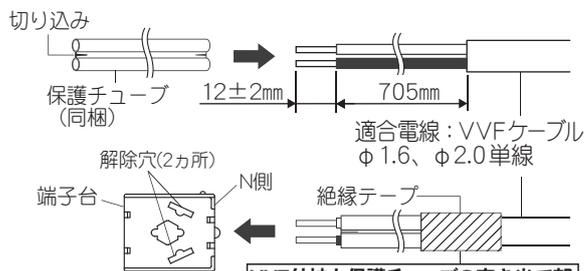
(注意) 挟んで引き下げない。枠と天井の間にスキマができます

注意

取付金具を確実に引き下げる。取り付けが不完全な場合、落下によるけが、又は枠と天井の間にすき間が出る原因となります。

5 電源線に付属の保護チューブを取り付け、端子台に接続する

- ①電源線のVVF外被をむく。VVF外被のむき代は右図参照。
- ②保護チューブを電源線に差込む。**保護チューブを取り付けないと火災、感電の原因となります。**
- ③VVF外被と保護チューブに絶縁テープを巻き付ける。
注) 絶縁テープはVVF外被と保護チューブの突き当て部を完全に隠すように巻き付けてください。
巻き付けないと火災、感電のおそれがあります。
- ④電源線を端子台に確実に差込む。
接続が不完全な場合、火災・感電の原因となります。



VVF外被と保護チューブの突き当て部は絶縁テープを巻きつけてください。

警告

保護チューブを切断しない。火災、感電のおそれがあります。

注意

電源プッシングが穴から外れた場合は、はめなおすプッシングがはずれた状態では、断熱材、虫、ほこりが侵入し、火災、感電の原因となることがあります。

(注意) 電源線接続後、余分な電源線は電源穴へ押し込む。枠と本体の間に隙間が出るおそれがあります。



器具の取り替え等で電源線を外す場合は、マイナスドライバー等を、解除穴に差し込みながら電源線を引き抜く。

6 ほこり防止シールを貼り付ける

確認 本体と天井の間に隙間がない事を確認してから、ほこり防止シールを貼り付ける。本体と天井の間に隙間がある場合は、上記 4 にしたがひ、取付金具を確実に引き下げてください。

- 取付金具の穴を覆うように付属のほこり防止シールを貼り付ける。



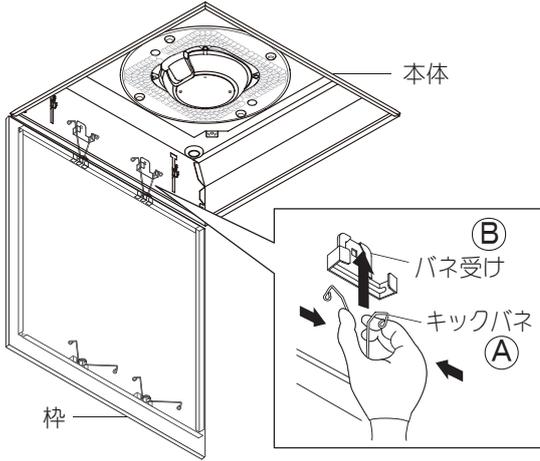
確認 シールで穴が確実にふさがっていること

注意

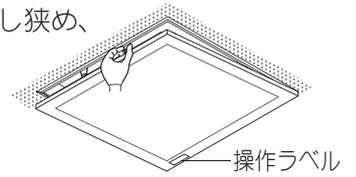
ほこり防止シールを確実に貼り付ける。貼り付けが不完全な場合、断熱材、虫、ほこりが侵入し、火災、感電の原因となることがあります。

7 本体に枠を取り付ける

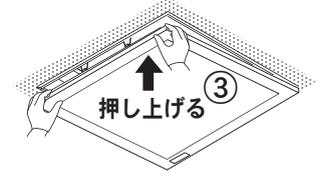
①キックバネ(A)(2箇所)を押し狭めながら、バネ受け(B)に引っ掛ける。



②残り2箇所のキックバネを押し狭め、バネ受けに引っ掛ける。

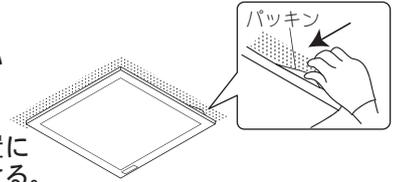


③枠を本体に押し上げる。

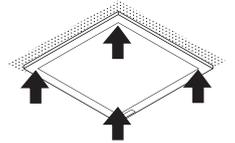


確認

- ・パッキンがはみ出していないことを確認する。はみ出ている場合は、枠を引き下げパッキンを元の位置に戻してから再度枠を押しつける。



- ・枠を押し上げ、枠とパッキンの間に隙間がないように枠を本体に押し付ける。



注意

必ず守る 枠を確実に取り付ける
取り付けが不完全な場合、落下によるけがの原因となることがあります。

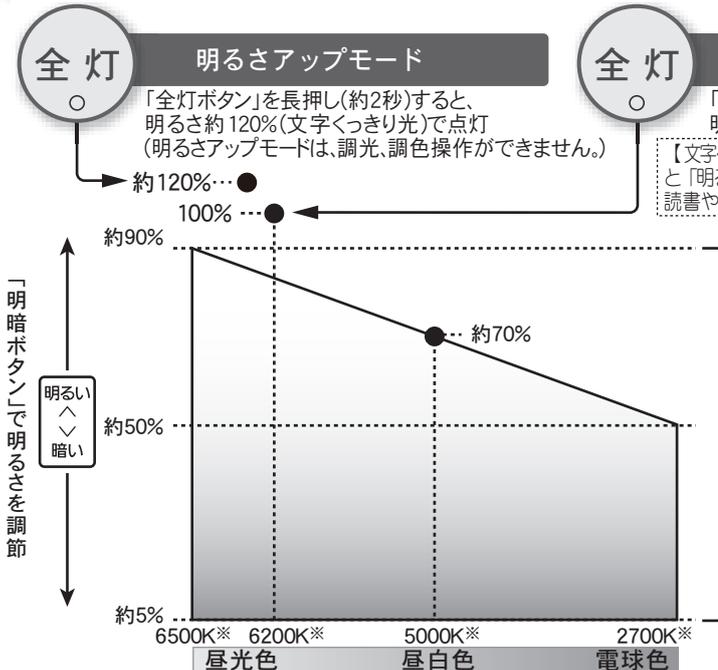
ご使用方法について

あかりを切り替える

壁スイッチはONの状態にしてください

リモコンの「普段ボタン」、「全灯ボタン」、「全灯ボタン(長押し)」であかりの切り替えができます。
リモコンの「明暗ボタン」、「調色ボタン」で明るさ、光の色を調節できます。

明るさアップ(長押し)



「明暗ボタン」で明るさを調節

リモコン	
全灯ボタン	明るさアップ(長押し) 全灯 (消灯)
普段ボタン	普段 (常夜灯)
明暗ボタン	白い色 ↑ (明るい) / ↓ (暗い)
調色ボタン	暖か色 ↓ (暖か) / ↑ (暖か)

普段

普段のあかり

「普段ボタン」を押すと、左図の範囲内であらかじめ設定した明るさ、光の色で点灯
(初期設定: 昼白色5000K※、明るさ約70%)

■ 普段のあかりを調光、調色して記憶させる

1 普段 リモコンの「普段ボタン」を押してLEDを点灯させる

2 白い色 ↑ (明るい) / ↓ (暗い) 暖か色 ↓ (暖か) / ↑ (暖か) リモコンの「明暗ボタン」「調色ボタン」で明るさ、光の色を調節する → 記憶

メモ ● LEDの明るさ、光の色を調節すると、その都度記憶します。
● 「全灯ボタン」を押して、上記手順2の操作をした場合も「普段ボタン」に記憶します。

※: K(ケルビン)とは、色温度の単位で光の色を数値化したものです。

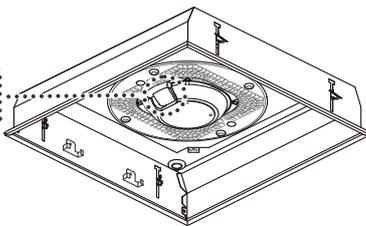
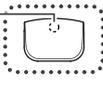
「調色ボタン」で光の色を調節

リモコンの使いかた

リモコン受信器(本体)

リモコン受信部

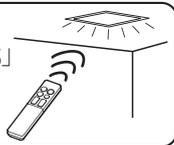
リモコンからの信号を受けます。傷つけたり、汚したりしないでください。



リモコン

送信のしかた

必ず「リモコン送信部」を器具に向けて操作してください。



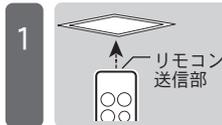
リモコン送信部

傷つけたり、汚したりしないでください。



リモコン操作時の音を消す方法

壁スイッチをONにして30秒以内に下記の操作を行ってください。



リモコンのフタをスライドさせて「リモコン送信部」を器具に向ける



リモコンの「普段ボタン」と「チャンネル確定ボタン」を同時に押す

メモ リモコン操作時の音を鳴らす場合は、上記の操作をもう一度行ってください。

全灯ボタン

LEDが昼光色(約6200K)、明るさ100%で点灯。全灯ボタンを長押し(約2秒)すると昼光色、明るさ約120%で点灯。

☞ 5ページ「あかりを切り替える」参照

普段ボタン

LEDが明暗ボタン、調色ボタンで調節した明るさ、光の色で点灯(初期設定: 昼白色5000K、明るさ約70%)

☞ 5ページ「あかりを切り替える」参照

調色ボタン

LEDの光の色を白い色から暖かい色に連続で調節

☞ 5ページ「あかりを切り替える」参照

おやすみタイマーボタン

☞ 下記「おやすみタイマーの使いかた」参照

チャンネルスイッチ

操作する器具のチャンネル(1~3)を設定

☞ 7ページ「複数のリモコン照明器具を操作する」参照

消灯ボタン

常夜灯ボタン(蓄光)

常夜灯が明暗ボタンで調節した明るさで点灯(初期設定: 明るさ100%)

☉ 太陽光や照明器具の光を蓄えて発光します。

☞ 下記「常夜灯を点灯する」参照

明暗ボタン

LED(100%~約5%)、常夜灯(6段階)の明るさを調節

☞ 5ページ「あかりを切り替える」参照

下記「常夜灯を点灯する」参照

チャンネル確定ボタン

チャンネル(1~3)の設定を確認

☞ 7ページ「複数のリモコン照明器具を操作する」参照

フタ

フタをスライドさせて、チャンネル切替を行います。

おやすみタイマーの使いかた

おやすみタイマーをONにすると、30分後に自動消灯を行います。

■おやすみタイマーをOFF/ONにする

おやすみ
30分

リモコンのフタをスライドさせて「リモコン送信部」を器具に向け、リモコンの「おやすみタイマーボタン」を押す



押すごとに切り替わります。

メモ

- リモコンでの消灯時でも、「おやすみタイマー」は、ONされます。(壁スイッチがOFFの場合は、「おやすみタイマー」はONされません。)
- 「おやすみタイマー」がONのまま点灯させた場合、「おやすみタイマー」をONにした30分後に消灯します。

常夜灯を点灯する

常夜灯点灯時に調光操作を行うと、その明るさを記憶します。

1 リモコンの「常夜灯ボタン」を押し、常夜灯を点灯させる

2 リモコンの「明暗ボタン」で常夜灯の明るさを調節する
➡ 記憶

メモ

- 6段階の明るさを調節できます。
- 再び左記の操作を行うまでは、記憶した明るさで点灯します。
- 常夜灯は調色できません。

壁スイッチで照明器具を操作する

■点灯・消灯する

壁スイッチ ON

点灯

壁スイッチ OFF

消灯

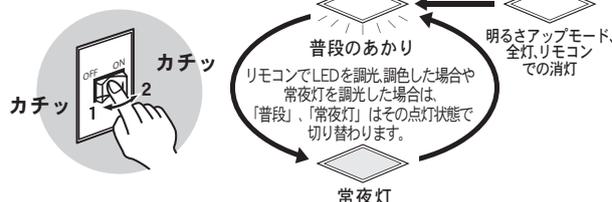
前回の「明るさと光の色」で点灯します

現在(消す直前の)「明るさと光の色」を記憶して消灯します

- 消灯状態で壁スイッチをOFFにすると、次にONしたときも消灯状態になります。

■点灯状態を切り替える

壁スイッチを素早く(約1秒以内)OFF→ONすると点灯状態が切り替わります。ただし、明るさアップモード、全灯には切り替えできません。



- 壁スイッチ1個で2台以上の照明器具を使用しないでください。点灯状態が、同時に切り替わらない場合があります。

複数のリモコン照明器具を操作する

照明器具のチャンネルを変更できます

リモコンのチャンネルを切り替えると、1台のリモコンで複数の器具が操作できます。また、リモコンで器具を操作できない時は、チャンネル設定が正しくない場合があります。

チャンネル設定でできること

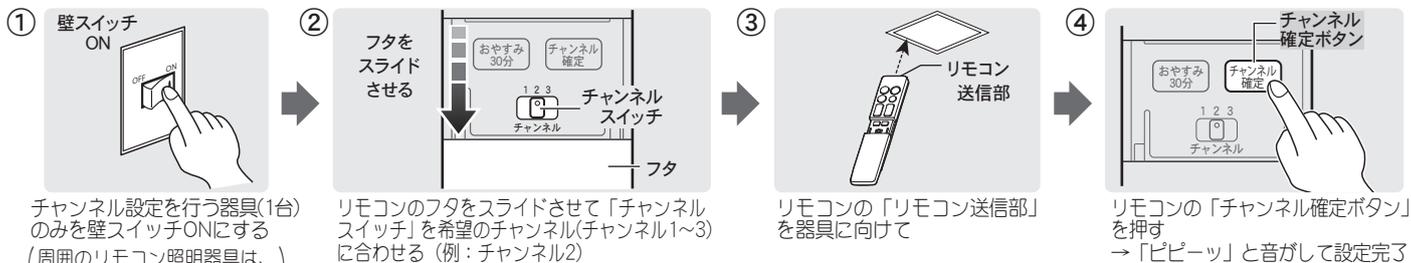
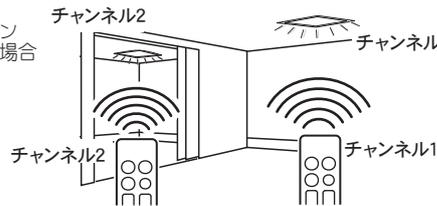
- 複数の器具を同時に点灯できます。
◎器具間の距離やリモコン操作の方向により、同時に点灯しないことがあります。

- 近くの器具を別々に点灯できます。

(例) 一部屋に2台のリモコン照明器具がある場合



(例) 隣室にもリモコン照明器具がある場合



チャンネル設定を行う器具(1台)のみを壁スイッチONにする
(周囲のリモコン照明器具は、必ず壁スイッチOFFにする※1)

リモコンのフタをスライドさせて「チャンネルスイッチ」を希望のチャンネル(チャンネル1~3)に合わせる (例: チャンネル2)

リモコンの「リモコン送信部」を器具に向けて

リモコンの「チャンネル確定ボタン」を押す
→「ピーッ」と音が出て設定完了

(メモ) 本製品以外の照明を操作する場合は、チャンネル設定方法が異なります。ご使用の照明器具の取扱説明書をご覧ください。
※1: 周囲のリモコン照明器具が壁スイッチONの場合、その器具もチャンネルが切り替わることがあります。

故障かな?と思ったら

下表に従って点検してください

現象	考えられる原因	処置	参照ページ
点灯しない	壁スイッチがOFFになっている、または、リモコンで消灯にして壁スイッチをOFFにしていた	壁スイッチをONにする、または、壁スイッチを素早くOFF→ONにする	6ページ 「壁スイッチで照明器具を操作する」
勝手に点灯する	非常に短い停電などにより壁スイッチ機能がはたらかず、点灯状態が切り替わった可能性がある	壁スイッチをOFFにする リモコンもしくは壁スイッチ操作で点灯モードを切り替える	5ページ 「あかりを切り替える」
勝手に消灯する	「おやすみタイマー」がONになっていた	「おやすみタイマー」をOFFにする (「おやすみタイマー」で消灯すると「おやすみタイマー」はOFFされます)	6ページ 「おやすみタイマーの使いかた」
リモコンで操作できない	リモコンの電池が正しく入っていない	リモコンの電池を正しく入れる	2ページ
	リモコンの電池が消耗している リモコンと照明器具のチャンネルが合っていない 他の機器(例えば、スマートフォン・タブレット、3Dテレビなど)から出る赤外線の影響により、リモコンが反応しにくくなっている	リモコンの電池を交換する リモコンのチャンネルを変更して操作する 他の機器を照明器具から離す、照明器具に対する向きを変える、または電源を切る	「付属部品」 7ページ「複数のリモコン照明器具を操作する」
調光、調色操作ができない	「明るさアップモード」になっている	リモコンもしくは壁スイッチ操作で「普段」に切り替える	5ページ 「あかりを切り替える」
リモコン操作時にちらつく	調光、調色動作をしている	調光(下限付近)、調色動作時、ちらつく場合がありますが異常ではありません。調光、調色動作が終わるとちらつきも止まります。	
点灯状態が勝手に切り替わる	電子ブロックが異常動作状態になっている	壁スイッチをONにして30秒以内に下記の①~③の操作を行ってください。 ①リモコンの「フタ」をスライドさせる ②「リモコン送信部」を器具に向ける ③リモコンの「チャンネル確定ボタン」と「消灯ボタン」を同時に押す (「ピーッ」と音がして、常夜灯が点灯します。) ●この操作を行うと、器具の初期設定に戻りますので、下欄の「上記の処置を行っても現象が続く場合」の②を行ってください。 また、記憶させていた普段のあかり、常夜灯の点灯状態も初期設定に戻りますので、設定をしなおしてください。	
「ピーッ ピーッ ピーッ」と音がした後に、「消灯」する	電子ブロックが故障している	電源を切り、ご購入の販売店、工事店、お客様ご相談窓口にご相談ください	

上記の処置を行っても現象が続く場合

- ①電源をいったん切り、約20秒以上経ってから再び電源を入れる
- ②器具のチャンネルを変更する (7ページ「複数のリモコン照明器具を操作する」参照)

●上記の点検でなお異常のある場合には、ただちに電源を切り、ご購入の販売店、工事店、お客様ご相談窓口にご相談ください。

お手入れについて

電源を切って、本体が冷めてから行ってください

- 明るく安全に使用していただくため、定期的（6カ月に1回程度）に清掃してください。
 - 汚れがひどい場合は、石けん水に浸した布をよく絞ってふき取り、乾いたやわらかい布で仕上げてください。
 - リモコンのリモコン送信部は定期的にお手入れを行ってください。ほこりなどにより汚れるとリモコンが効きにくくなります。
 - 電池は半年を目安に取り替えてください。
- ◎付属の乾電池は、最初に使用するために用意しているもので、半年に満たないうちに消耗する場合があります。



リモコン送信部

確認 シンナー、ベンジンなどの揮発性のものでふいたり、殺虫剤をかけたりしないでください。変色、破損の原因となります。

ご使用上に関するお知らせ

故障や異常ではありません

【器具自体の留意点】

- 必ず壁スイッチを設けてください。
 - ・点灯に異常が発生したとき、リセット操作に壁スイッチが必要です。
 - ・長期使用しないときや、お手入れの際に電源を切ることができます。
 - ・リモコン送信部の電池が消耗した場合やリモコン送信器を紛失した場合に点灯消灯ができます。
- 点灯中や消灯直後、プラスチックの伸縮によるきしみ音が照明器具から発生することがあります。
- 停電時、停電復帰時などで予期せぬ非常に短時間の停電が発生した場合、点灯状態が変わる場合があります。長時間使わないときは、壁スイッチをOFFしてください。
- 壁スイッチがONの場合、消灯時も電力を消費します。
- リモコンは温度の高いところ、湿気の多いところで使用しないでください。水、コーヒー、ジュースなどの液体をかけないでください。故障の原因となることがあります。
- LED、常夜灯にはバラツキがあるため、同一品番でも商品ごとに発光色、明るさが異なる場合があります。
- LEDが点灯しない場合は、電源を切り、販売店、工事店、別紙お客様ご相談窓口にご相談ください。
- LED光源は、通常のランプのようにお客様自身でのお取り替えはできません。

【周囲の影響】

- 器具の近くでは、ラジオやテレビなどの音響、映像機器に雑音が入ることがあります。
- 3Dテレビ用などの特殊なメガネをかけて点灯している照明器具を見た場合、縞模様やちらつきが見える場合があります。
- 他の機器（例えばスマートフォン・タブレット、3Dテレビなど）からでる赤外線の影響により、リモコンが反応しにくい場合があります。
- 点灯中にビデオカメラを使用すると、ビデオカメラのモニターや録画画像に縞模様が入る場合があります。

仕様

器具のラベルをご参照していただき、品番にチェックをしてください。

品番	使用電圧	周波数	消費電力(リモコンOFF時 1W以下)	入力電流
<input type="checkbox"/> LGC37122	AC100V	50/60Hz 共用	39.0W	0.41A
<input type="checkbox"/> LGC57122			48.7W	0.51A

- LED照明器具の光源寿命は、40,000時間です。(照明器具の寿命とは異なります。)光源の寿命は、点灯しなくなるまでの総点灯時間または、全光束が点灯初期の70%に下がるまでの総点灯時間のいずれか短い時間を推定したものです。

保証とアフターサービス

よくお読みください

使いかた・お手入れ・修理などは…

■まず、お買い上げの販売店へご相談ください

▼お買い上げの際に記入されると便利です

販売店名
電話 () -
お買い上げ日 年 月 日

修理を依頼されるときは…

まず電源を切って、お買い上げ日と以下の内容をご連絡ください。

●製品名	住宅用照明器具
●品番	上記「仕様」をご参照ください。
●故障の状況	できるだけ具体的に

保証期間：お買い上げ日から本体1年間

ただし、LED電源・LEDユニットについては5年間です。
保証書が必要な場合は、当社代理店または当社営業所へお申し出ください。
※保証の例外 24時間連続使用など、1日20時間以上の長時間の使用の場合、保証期間は半分となります。

補修用性能部品の保有期間 **6年**

*当社はこの照明器具の補修用性能部品（製品の機能を維持するための部品）を、製造打ち切り後6年間保有しています。

- 保証期間中は、保証の規定に従って、出張修理いたします。
- 保証期間終了後は、診断をして修理できる場合は、ご要望により修理させていただきます。

*修理料金は次の内容で構成されています。

技術料 診断・修理・調整点検などの費用

部品代 部品および補助材料代

出張料 技術者を派遣する費用

- アフターサービスについてのご不明な点や修理に関するご相談は、お買い上げの販売店または別紙お客様ご相談窓口にお問い合わせください。

パナソニック株式会社 ライティング事業部

〒571-8686 大阪府門真市門真1048 © Panasonic Corporation 2023